

- 一五八二〇
- * 一五八一
- * 一五八二二 (復元)
- * 一五八二三 (復元)
- * 一五八二四 (復元)
- 一五八二五
- * 一五八二六 (復元)
- * 一五八二七
- * 一五八二八 (復元)
- * 一五八二九
- * 一五八三〇
- 一五八三一
- * 一五八三二
- 一五八三三
- 一五八三四
- 一五八三五
- 一五八三六
- 一五八三七
- 一五八三八

其の確乎として固執する者は。徴 天地に在ればなり。徴 天地に在るとは。何ぞや。

今 嘗みに語を擧げて人に問うて、
 天下をして暝焉として夜ならしめる者、
 人 將に答えて曰く、
 地上をして灼熱として晝ならしめ、
 而して其の體を聚める者、
 而して其の體を聚める者、
 而して天より地に降る者、
 則ち雪と、
 冬にして水の凝りて、
 而して天より地に降る者、
 則ち雪と、
 夏にして火の發し、
 而して地より天に升る者は、
 則ち雷と、
 是に於て我れは半を言いて、
 而して人は其の半を知る。

(欄外朱書追記につき、もと一五八二六―二二を削除。)

又た半を擧げて之を問わん、
 彼れ將に半を擧げて之に答えん、
 徴 果たして天地に在ればなり。

○徴 果たして天地に在ると雖も。而も條理の道は微なり。奚ぞ言い易からんや。(PA 037)

我は造物者に非ず。詎んぞ能く條理を盡くさん。詎んぞ能く條理を盡くさんなれば。
 則ち斯の編 豈に恃む可けんや。然りと雖も。條理は則ち天地の準なり。
 若し得ざる所の者有らば。則ち晉の未だ良馬に遇わざるなり。
 若し此に人有りて。條理の正を執りて。以て晉の得ざる所を質せば。則ち
 天地安んぞ晉の不能を護らん。是非なる者は。條理の在る所なり。
 聖人復た起るとも。豈に之に易うるを得んや。是を以て。

(I 382b)